

ISOメルマガ(140929)

ISO9001・ISO14001の改正状況(25) リスク及び機会

今回は「リスク及び機会」について、状況を紹介しましょう。

これまでのメルマガで紹介のとおり、ISO9001及びISO14001ともに、MSS(マネジメントシステム規格)の共通要素を採用して改訂作業が進められていますが、ISO9001及びISO14001の改正作業の中で、この「リスク及び機会」についてどのように解釈するかが大きな課題となっています。

その一つの要素は、「リスク」についてはMSS共通要求用語にその定義が定められていますが、「機会」については定義されていないことがあります。また、「リスク」の定義が「リスクマネジメント」の定義と多少異なることもあります。

MSS共通要求用語における「リスク」の定義は次の通りです。

3.09

リスク(risk)

不確かさの影響。

注記 1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向にかい(乖)離することをいう。

注記 2 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解若しくは知識に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記 3 リスクは、起こり得る“事象”[ISO Guide73:2009(JIS Q 0073)の 3.5.1.3の定義を参照]及び“結果”[ISO Guide73:2009(JIS Q 0073)の 3.6.1.3の定義を参照]、又はこれらの組合せについて述べることにより、その特徴を示すことが多い。

注記 4 リスクは、ある事象(その周辺状況の変化を含む。)の結果とその発生の起こりやすさ[ISO Guide73:2009(JIS Q 0073)の 3.6.1.1の定義を参照]との組合せとして表現されることが多い。

また、「JIS Q 0073:2010(ISO Guide73:2009)リスクマネジメント—用語」における「リスク」の定義は次の通り「目的に対する」があります。

1.1 リスク(risk)

目的に対する不確かさの影響。

注記 1 MSS共通要求用語の注記 1に同じ。

注記 2 目的は、例えば、財務、安全衛生、環境に関する到達目標など、異なった側面があり、戦略、組織全体、プロジェクト、製品、プロセスなど、異なったレベルで設定されることがある。

注記 3 MSS共通要求用語の注記 3に同じ。

注記 4 MSS共通要求用語の注記 4に同じ。

注記 5 MSS共通要求用語の注記 2に同じ。

また、「機会」については、用語として定義されていません。このような場合には一般用語として扱われます。例えばOxford英英辞典では次のように説明しています。

「A time when a particular situation makes it possible to do or achieve something.」

(物事を行う(達成する)のを可能にする特定の状況/時期を表す)。

これに対応して、現在改正作業中の、ISO9001 及びISO14001 のそれぞれの DIS では、「リスク」の定義は次の通りとなっています。

#### ISO9001:2015 の DIS の「リスク」の定義

3.09

リスク(risk)

期待されている結果に対する不確かさの影響。

注記 1 MSS 共通要求用語の注記 1 に同じ。

注記 2 MSS 共通要求用語の注記 2 に同じ。

注記 3 MSS 共通要求用語の注記 3 に同じ。

注記 4 MSS 共通要求用語の注記 4 に同じ。

注記 5 “リスク”という用語は、好ましくない結果が得られる可能性がある場合にだけ使われることがある。

MSS 共通要求用語の定義と比べて、「期待されている結果に対する」が追加されていることと、注記 5 が追加されています。

「期待されている結果に対する」が追加されたことは、リスクマネジメントの用語の定義に沿っての修正ですが、注記 5 が追加されたことに関して、ISO 月刊誌「アイソス」8 月号の「ISO9001 改正動向最新動向の座談会」記事で、H 氏が「このことで、リスクは好ましくないこととして考えるようになった」と言い切っておられますが、座談会の結論としては、DIS であるのでその見解は決定ではないことになっています。

一方、ISO9001 の次期改正作業と並行して作業が進められている ISO/TS9002:2015(ISO9001:2015 の解説版)の作成の準備段階で、「リスク」は、将来、「機会」は、現在」のような意見も出ているようですが、その行方は全く不明です。

一方、ISO14001:2015 の DIS の「リスク」の定義は次のようになっています。

3.18

リスク(risk)

目的(3.16)に対する不確かさの影響。

注記 1 MSS 共通要求用語の注記 1 に同じ。

注記 2 MSS 共通要求用語の注記 2 に同じ。

注記 3 MSS 共通要求用語の注記 3 に同じ。

注記 4 MSS 共通要求用語の注記 42 に同じ。

定義はリスクマネジメントの定義に合わせています。

一方、要求事項の中で、「リスク及び機会」に明確な修正が行われています。すなわち、「リスク及び機会」が「脅威及び機会に関連するリスク」に変えられ、「脅威」と「機会」について次のように記述しています。

#### 6.1.2 著しい環境側面

注記 著しい環境側面は、有害な環境影響(脅威)又は有益な環境影響(機会)に関連するリスクをもたらし得る。

#### 6.1.3 順守義務

注記 順守義務は、組織に対する有害な影響(脅威)又は有益な影響(機会)に関連するリスクをもたらす可能性をもつ。

また、付属書 A.6.1.2 の中で、次のように解説しています。

環境に対して有害な影響をもたらす可能性をもつ環境側面は“脅威”とみなすことができ、有益な環境影響をもたらす可能性をもつ環境側面は“機会”とみなすことができる。

このように、ISO14001:2015 の DIS では、「有害な環境影響は“脅威”、有益な環境影響は“機会”」と明確にしたように見えます。

しかし、産業環境管理協会の環境マネジメントシステム審査員評価登録センター(CEAR)広報誌の 9 月号の記事「次期改訂版ISO14001 に基づくEMSの運用についての考察(第 3 回)」の中で、S氏は「“脅威”=好ましくないリスク、“機会”=好ましいリスクではない」、「“脅威”からも“機会”からも好ましい方向、好ましくない方向のリスクも発生する。」と、繰り返し強調しています。まだまだ混乱があるようです。

「リスク及び機会」についてはこのような状況ですが、元々MSS 共通要素を決めてきた経緯からは、ISO9001 とISO14001 とが異なった定義・解釈をすること自体には大きな問題があると考えます。それぞれの 2015 年版IS(国際規格)が発行されるまでに、この問題が解決されることを強く期待しています。

以上

参考:ISO9001 及び ISO14001 の次期改正についてのこれまでのメルマガの記事は次に掲載されています。

•[http://kanagawa-touroku.org/p/9000/?page\\_id=880](http://kanagawa-touroku.org/p/9000/?page_id=880)

また、ISO9001 及び ISO14001 の次期改正についての解説セミナーの案内も次に掲載されています。

•<http://kanagawa-touroku.org/p/9000/>

•<http://kanagawa-touroku.org/p/kankyo/>